

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)  
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com  
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円  
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円  
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円  
振替口座00940-0-161341  
「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう げんぼつじこ きょうくんか  
特集：原発事故をしっかりと教訓化する-2  
つづ ふくしまほうもん さの たけかず  
リレーエッセイ：続けたい福島訪問-佐野武和-4  
あべせいけんひはん おおて いしづかなおと  
安倍政権批判できぬ大手メディア-石塚直人-5  
かい あゆ さいしゅうかい  
ぶくぶくの会の歩み(最終回)-6

題字：  
塩澤 文男  
(しおざわ・ふみお)



ピーカンナッツ

絵：まこ なまこ

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

この原稿が活字になっている頃には、参議院選挙の結果が出て、自民党の圧勝が伝えられていることだろう。いや、千に一つや万が一、自民党が第一党にならず、多党乱立の様相を呈して衆議院・参議院のネジレが起きているならば、この国の未来にも微塵ほどの光が差したということだし、さらに、もしも、

護憲・脱原発・反TPPと平和・人権擁護を主張する議員が多数を占めるような選挙結果になっていれば：ま、それは断じてない、ありえないから、夢想はやめておこう▼1976年12月の総選挙で、自民党は249議席を得て第一党だったが、過半数を割った。その後「保革伯仲」と言われた時代も長くは続かず、1986年7月の選挙で同党は300議席を獲得した。そして、2009年、308議席を占めた民主党「政権交代の夢」も3年たらずで崩壊し、昨年、自民党が294議席で政権に返り咲いた▼この40年間、何も変わりはないなかった。むしろ、貧富の差が極端に

拡大し、原発災害に象徴されるように人の命が蔑ろにされ、政治・教育・福祉は荒廃の一途を辿っているではないか。選挙で社会が変わるか？この問いに対する答えは、この国では永遠に出ない気がする。その代価が「侵略戦争」であることは、二言を要さない。(ハギ)

# げんぱつじこ きょうくんか 原発事故をしっかりと教訓化する

# げんぱつ かく ふ 原発やめて、核のゴミ増やすのもうやめよう

ふくしまけんたむらし  
福島県田村市

ケアステーションゆうとぴあ

りじちよう  
理事長

すずき きぬえ  
鈴木絹江さん



鈴木絹江さん

福島県在住の鈴木絹江さんによる講演『障がいをもつ人の避難や防災の在り方』の後半「原発事故・放射能のとりえ方と防御」です。鈴木さんは1990年代から、「障がい者自立生活支援センター」を発足させるなどの活動を展開。海外での研修や視察などを重ね、01年には、「ケアステーションゆうとぴあ」を設立し理事長に就任しました。

## フクシマ＝避難への非難

「避難」はとても重要です。宮城県釜石市の小学校は「奇跡の避難を遂げた」と賞賛されました。三陸沖は、地震と津波の常襲地域なので防災教育には取り組まれてきた地域ですが、慣れっこになり、津波警報が発令

避難先の条件は、①冷暖房完備で、②温かい食事が提供され、③軽い運動もできることで、ホテルなどを探しました。障がいをもつ人が体育館などに避難すると、必ず体調を崩すからです。避難計画についても、支援者が助けにいけないことを想定した、しっかりした計画と訓練が重要だ、と語っています。

後半で鈴木さんは、終息にはほど遠い事故の現状と放射能の恐ろしさを語り、未来世代への責任という重い課題へも向き合おうとしています。 (文責・編集部)



映画「逃げ遅れる人々-東日本大震災と障害者」より

されても逃げない人たちが沢山いたそうです。「これを何とかしなければならぬ」と、小中学生を対象に10年間、津波防災教育に力を入れてきました。

この教育を受けた人たちの学校は、98%の子もたちが助かりました。残りの2%は、この日学校を休んだ子たちでした。中学生たちが「津波が来ると、津波がくるぞ」と小学校の前を通り、老人ホームなど高齢者の施設を通り、保育所の子どもたちを助けながら避難所に行ったことよって、皆が助かり、「奇跡の避難」と賞賛されるようになりました。

「逃げなければならぬ」とわかっていても、「自分の場所は大丈夫だ」「大騒ぎして避難するのは恥ずかしいんじゃないか」と思ってしまう心理です。災害心理の研究でも、最初の危険情報は無視する傾向があるそうです。この「安全バイアス」を取り払うことが大事なので、子どもたちには、「中学生は助けられる方じゃなくて、助ける方だよ」と教えて、率先避難者になるよう教育したそうです。

「非国民」だと非難する状況が続いています。放射能は、眼にも見えなければ、ニオイも味もしないもので、「何も無いと思えば何もな

チェルノブイリ原発事故の時、日本政府は監視体制を強め、規制を厳しくして、放射能防御を奨励したにも関わらず、今回の事故では、逆に基準を緩めてしまいました。年間1ミリSvが、法律で決められた基準なのに、20ミリSvまで引き上げて、帰還を促す福島の現実があります。

原発事故の防災とは、廃炉しかないと思っています。福島県では津波で亡くなった方が、約2千人ですが、原発事故がなければ、もっと助かった人がいたはずですが、原発に隣接する浪江町には、津波に流されて屋根の上へ逃げたり、家の2階で助かった人はいたのですが、

「非国民」だと非難する状況が続いています。放射能は、眼にも見えなければ、ニオイも味もしないもので、「何も無いと思えば何もな

チェルノブイリ原発事故の時、日本政府は監視体制を強め、規制を厳しくして、放射能防御を奨励したにも関わらず、今回の事故では、逆に基準を緩めてしまいました。年間1ミリSvが、法律で決められた基準なのに、20ミリSvまで引き上げて、帰還を促す福島の現実があります。

原発事故の防災とは、廃炉しかないと思っています。福島県では津波で亡くなった方が、約2千人ですが、原発事故がなければ、もっと助かった人がいたはずですが、原発に隣接する浪江町には、津波に流されて屋根の上へ逃げたり、家の2階で助かった人はいたのですが、

原発が爆発したために消防署も自衛隊も警察も入れなくて、見殺しにされました。新聞には病死と発表されています。老夫婦の家族で1階でおばあちゃんが津波にあり、寝たきりのおじいちゃんは2階で寝て、津波に襲われなかったけれども、面倒見てくれる人が誰もいなかったで、亡くなったそうです。自殺者もたくさん出ています。「私はお墓に避難します」と言って自殺したおばあちゃんお前たち避難できないだろう」と言って、いっちょうらの服を着て自殺をはかった102歳のおじいさんもいました。「孫と別れて暮らすのはとても辛い」といって自殺した方もいます。こういう自殺者を出してはならないというのが、今回の課題ではないかと思えます。

### 福島原発事故は何も終わっていない

福島原発からは、今も毎時24億ベクレルの放射能が放出され続けています。止まった原発は冷やし続けなければなりません、冷却のための電気の配電盤がねずみにかじられて、4時間程止まってしまふことも起きています。冷却も不安定で、危うい状態が続いています。

4号機の使用済核燃料プールの中には、1500本の燃料棒が入っているのですが、宙づり

のような燃料プールが新たな地震で崩落してしまうのではな

を4200倍に引き上げたことになり

憤っています。原発で生み出される核廃棄物

人たちは、田舎の犠牲と差別と搾取の上に成り立った便利さを甘受していることを知って欲しいと思います。

1号2号3号機は、放射能が高くて人が近寄ることすらできません。2号機は73SV/時で、近づいた人は100%死んでしまうほどの放射線です。2号機に人が近寄れるようになるには300年かかるそうです。

100Bq/kg以下の食品は、市場に出回っています。3月11日以前のお米は0.024Bq/kgの放射能し

て、検査はするが治療はしないという「緩慢なる殺人」を行っているのではないのかと、強く

福島県はこれからどうなっていくのか？とても心配です。「核と人類は共存できない」とを、私たちはきちんと学ばなければなりません、都会の

「世界全体が幸せにならないければ、個人の幸せはあり得ない」という言葉を信じて、私は障がいを持つ人の支援をしてきました。

それから電気料金の自動振込みを止めて、「廃炉費用のために使ってください」とメッセージを付けて1円を過払いにしています。東北電力にも原発を止めるようお願いしています。

## 100年先を見据えて今自分がやれることをやる

原発事故が起こったとき、私たちの子どもは、成人して福島県外に居たので、直ぐに避難しなければならない差し迫った事情はありませんでした。だから私たちは、残ってる人たちへの支援をどうするか考え、できることをやっているつもりです。

しかし、原発事故は、10年や20年で収束する問題ではないし、自分が生きてる間に、解決できる見込みもありません。しかし私たちは必ず歴史の審判を受けることになり

そんな100年先を見据えて、今自分がやれることは何なのか？、やるべきことは何なのか？を考えると、気持ちが折れてしまいそうになります。事態の深刻さに比べて自分たちの力が小さくて、残された時間も少ないからです。やるべきことを数え上げると、その壁の高さに呆然としてしまいます。

ただ全国をまわって歩くと、「何かできることがあったら言ってください」、「応援してますよ」とか、「野菜を送ります」と、多くの方が声をかけ、カンパも送ってくれます。そういう暖かい人の気持ちに接すると、「まだまだ日本は捨てたもんじやない。福島を助けたいと思ってる人は沢山いるんだから、応えていかなくっちゃ」と思い直しています。

私はもう60才を過ぎたので、余生はのんびりしたいと思っていたんですが、人生の最後に、こんな大きな問題のなかに投げ入れられてしまいました。「自分のことだけを考えて生きてたんじゃあ駄目なんだ」と思わされました。私に何ができるのか？わからないのですが、「1億分の1は動かなくっちゃ」と思っています。

今回の原発事故をしっかりと教訓化しないといけません。世界中で火山が噴火したり地震が多発しています。日本の周辺も地殻の活動期に入っています。こんな時期に原発を再開させて、万が一どこかの原発が壊れたら、日本には住めなくなるということを伝えていきたいのです。

私たちが今回の災害で、人災も天災も、立場の弱い人や貧しい人が犠牲になつてることを知りました。とても悲しいことが起きてしまいました。ひとりひとりの力、人の力でもできることが沢山あると思います。ひとりひとりが自分の頭で考えて社会を変えていくひとりになってほしいと思います。